



帝塚山学園広報誌

Vol. 12
2022/Mar.
令和4年3月18日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園





帝塚山学園創立80周年

「帝塚山教育を通じて、変化する時代に選ばれ続ける総合学園」はこれからも。



Contents *T-time* Vol.12

巻頭特集 P 03

学園長挨拶「これからも『選ばれ続ける帝塚山学園』するために」

活躍する卒業生 T-voice P 05

帝塚山高等学校68期生 岡田 真祐子 さん

大学 P 07

「言の葉 紙しばい」発売開始

TOPICS

女子バレーボール部 関西1部リーグ連覇

第57回帝塚山大学大学祭「虹色祭」

奈良県スマート学生フォーラム2021

中学校・高等学校 P 09

高校生の声を販売戦略に ピップ株式会社との情報交換会

TOPICS

「古代米田んぼプロジェクト」2年目も実りある秋

キャリア教育講演会(医師編)

帝塚山高等学校74期生成人式(同窓会主催)

小学校 P 11

2年生・生活科「奈良交通バス出張授業」

TOPICS

小学校運動会

Tezukayama English Day 2021

第49回帝塚山小学校音楽祭

幼稚園 P 13

幼稚園運動会

TOPICS

制作展

クリスマス会

お餅つき

広がる教育連携 P 15

さつまいものバトンリレー～幼稚園児へ伝えたい大学生の思い～

・中高同窓会だより P 16

・学園からのお知らせ P 17

〈新型コロナウイルス(オミクロン株)への対応について〉

・帝塚山学園物故者慰靈祭報告 P 18

・学園創立80周年記念募金 ご芳名一覧

「*T-time*」(第12号) 表紙

毎朝、子どもたちが鈴なりになって駅の歩道橋を通り、正門へと向かっていく様子は、学園前界隈では当たり前の光景となっています。

現在の正門が完成したのは、平成13年4月。それまでは交通量の多い道路を横断することで学園前駅周辺の交通渋滞の要因となっていましたが、立体交差が実現したことで安全かつ安心して登校できるようになりました。

幼稚園児が登園する際は、キャンパス西側から入構するため正門を使用しませんが、朝は時間の経過で小学校の児童、次に中学校・高等学校の生徒(表紙写真)、そして大学生、と通る子どもたちの姿が変わっていく様は、帝塚山学園が正に総合学園であることを象徴しています。

UD FONT





長引くコロナ禍の影響は、経済社会に大きな打撃を与え、私達の守備領域の教育においても、その対応と学校経営に大きな影響を及ぼしています。そんな中、平成28年度から今年度までの学園の基本計画である第4次中期計画が終了します。勿論、次の第5次中期計画の策定に

学園全体で鋭意努力している最中でもあります。

こんな時ですので、今、第4次中期計画を少し振り返り、「これからも『選ばれ続ける帝塚山学園』であるために」を考えたいと思います。

まず、大学ですが第4次中期計画の始

まる直前の平成27年度は入学定員数890人のところ、前年より295人減の817人、入学定員充足率91・7%の入学者となり、大学の収容定員充足率では76・7%と大変な状況でしたが、その後「学園財政健全化計画(大学編)」を支えに「第4次中期計画」期間中に学部学科の再編

学校法人 帝塚山学園
学園長 富岡 将人

これからも 『選ばれ続ける帝塚山学園』であるために

や更なる入学定員減等を実施し、令和3年度入学者はコロナ禍と入試制度改革の実施が重なったものの入学定員805人を33人上回る838人を確保、大学の収容定員充足率も112.5%、3,622人となり、概ね所期の目的を達成できたところです。また、大学受験の合否目安となる各学部学科の偏差値も35～42.5点から令和3年度では42.5～50.0点へと、これも大幅に改善できたところです。

また、令和3年度入試が全国的には深刻な少子化の影響を背景に、大学入試制度改革実施年度やコロナ禍が重なり、全國の大学では約半数が募集定員割れを生じていることからすると、大変頑張った姿となっています。

令和4年度入試は現在進行中です。ただ、コロナ禍が年間を通じて継続している影響から、本学もかなり厳しい状況が見込まれ、心配は尽きないところですが、「選ばれ続ける帝塚山学園であるために」の観点からは、基本的には先程の偏差値の維持向上を前提にしながら、志願者拡大に努力していくスタイルの継続発展が目指す方向ではないかと考えています。

園財政健全化計画（中高編）及び「同（小幼編）」を支えとした「第4次中期計画」期間で見てみると、高中生は過去6年間の入学者は募集定員を少し上回る比較的安定した状況が続いているが、幼稚園は近隣のエリニアに競合する幼稚園等が出来て以来、近隣エリニアの各園同様に苦戦が続いている。また、令和4年度入試の状況は、中学校で厳しくなってきていますが、特に小学校では定員を割れそうな状況です。現下で特効薬はなく、募集活動を小まめに丁寧に、繰り返し行っていくことが最良の方法かなと考えています。

また、総合学園の強みである「内部進学推薦制度」のアピールも強く打ち出す必要を感じています。勿論、内部的には状況の分析と中小では少子化対応プロジェクトを組み知恵の結集を図りたいと考えています。

いざれにせよ、学校経営の環境は少子化に決定的に歯止めがきく対策がないまま続していくものと思われ、進学率も既に上限と言われている中、他目的での様々な制度改革も試みられており、このよう

次に高校から幼稚園ですが、これも「学園財政健全化計画（中高編）」であるための固定的な学園の姿ではなく、常に外的環境の変化の分析と、制度改革での影響を分析しながら、迅速に対応して行くことが必要だと考えます。留まることなく絶えず柔軟に、対応策を先取りしながら、果敢に実行していくことしか無いのではないかと考えています。そして、教職員と共に考えながら「これからも『選ばれ続ける帝塚山学園』であるために」頑張ります。



活躍する卒業生

T-voice

帝塚山高等学校68期生

同級生を支え続けて勝ち取った 友情に輝く2つの金メダル

帝塚山中学校・高等学校
平成26年3月卒業

岡田 真祐子さん

学校法人東洋大学事務局 学生部学生支援課 勤務

新型コロナウイルスの感染拡大で開催が1年延期され、さらには無観客という異例づくめで開催された「東京2020オリンピック競技大会」。しかし、そのような環境下においても、日本のアスリート達は史上最多となる58個のメダルを獲得しました。

中でも、夏季大会では日本女子選手史上初となる二冠に輝いた競泳・大橋悠依選手の活躍は、テレビの前で観戦していた多くの人に感動を与えてくれました。その大橋選手の活躍を陰で支える一人に、帝塚山中学校・高等学校の卒業生・岡田真祐子さんがいます。現在は、もう次のパリオリンピックを目指す選手たちのトレーニングに付き添い、忙しくされている岡田さんへインタビューをさせて頂きました。

寄せ書きの皿には、大橋選手などメダリストが名前を連ねる中に岡田さんの名前も刻まれている▲



帝塚山中学校・高等学校時代は、水泳部で選手として活躍されていました。東洋大学へ進学された後、水泳のコーチを目指された経緯について、教えてください。

大学3年まではトレーナーに憧れがあ

りました。しかし、平井伯昌監督（兼競泳日本代表ヘッドコーチ）より「君はトレーナーよりコーチ向きだ。一緒に東京五輪まで続けないか。」とお言葉を頂き、今しか見られないものや挑戦できることを逃したくないとと思い、コーチになる決断をしました。

東洋大学の同期であり、コーチとしても支え続けてきた大橋悠依選手が東京オリンピックで見事2冠に輝きました。その瞬間は、どうご覧になりましたか。

優勝する瞬間は「一チとして詰めていたナショナルトレーニングセンターで、他のスタッフとともにモニターで見ていました。大橋選手がゴールタッチした瞬間、これまでの苦しかったことや頑張りぬいたことがフラッシュバックしました。しかし、すぐに（大橋選手は）本当に凄いことを成し遂げたのだという実感が湧き、周りのスタッフと喜びを分かち合いました。

その後、平井監督がテレビ電話を繋いでくれて、大橋選手へ直接「おめでとう」と伝えました。

オリンピック後のマスコミ取材に、大橋選手は「岡田さんは私のことを一番知っている人」と話されており、平井監督も「岡田がいなきや、今の（大橋）悠依はいい」と、岡田さんのコーチングを絶賛されています。

自分自身のコーチングにはまだまだ自信のないことが多いです。平井監督のもとで常にユニークかつトップレベルのコーチングを勉強していますが、一度も平井監督のようにできるとは思つたことがありません。選手のパフォーマンスを上げるために、平井監督と同じ考え方で、監督をサポートす

るためにどう動くかということを常に考えて「一チング」しています。

そんな中、平井監督の豊富な言葉の引き出しを参考に、自分なりに選手の心を動かす言葉を考え、コーチングに活かすようにしています。窮地の場

面でどのように声を掛けるか迷ったときには、「平井監督ならどうするか」を考えて行動します。

このように、平井監督と同じ目的・思考を持ちながら、自分なりに常に選手のためになる行動を考えてコーチングを行うことを大事にしています。

帝塚山中学校・高等学校での思い出や記憶に残る先生など、エピソードを教えてください。

中学・高校での生活はとても濃い時間であり、大切な時間だったと今でも思い返すことが多いです。私の印象に残っているのは、やはり水泳部での活動や体育の授業です。水泳部での活動は今の自分の原点でもあり、トップの世界を見たいと思わせてくれた大事な時間でした。

体育の授業では、主に秋田晋弥先生へ「もっと体育の時間を増やしてほしい」など無茶なことを言っていた記憶ばかりですが、間違いなく一番力を注いで取り組んだ教科です。あと、書道の北田創先生には進路のことの大変お手間を掛けてしまいました。書道教室で相談に乗って頂いたのが懐かしいです。

岡田さんのような「社会で大きく輝ける将来」を夢見て、帝塚山学園では後輩たちが学んでいます。ぜひ、テヅカの先輩、またコーチの立場としてエールを贈つてあげてください。

中学や高校の記憶は、どれだけ時間が経とうとも色濃く思い出に残るものだと思っています。是非、好きなことを見つけるなど、色々なことへ全力を注いでほしいと思います。そう心掛けるだけで、大事なものが見つかったり、更に色々なことがチャレンジすることができると思います。

帝塚山学園でしか経験できないことがたくさんあると思います。枠にはまらず、どんなことでもいいのでチャレンジしてください。そうすれば視野が広がり、交友関係も広がり、皆さんのが今後の人生に活きてくると確信しています。



言の葉大賞 受賞作5作が、紙しばいになりました!

帝塚山大学との共同プロジェクト
教育学部ともども教育学部の
3年生が行員として担当
教育学生の皆さん担当先生
による監修

言の葉 紙しばい 新発売!



紙芝居作成に携わった徳永准教授と学生6人

人と人との触れ合いをテーマ 温もり感じる紙芝居で表現

12月7日

この紙芝居は、同協会が全国の教育機関に向けて実施する「言の葉大賞®」のこれまでの受賞作品の中から5作品を原作に選び、制作したものです。絵本専門士でもある教育学部・徳永加代准教授が、コロナ禍だからこそ大切にしたい人と人との触れ合いをテーマに、子どもたちの「聞く力」、「共感力」、「想像力」、「国語力」、「文章力」を育めることを選択しました。

また、作画を担当したのは、こども教育学科3年・西尾この実さん、原小雪さん、平井瑠華さん、古谷初奈さん、山田明日香さん、吉村舞さんの6人。「教育実習先で使いたいと思えるもの」と、構成やイラスト表現に工夫を重ね、色鉛筆の柔らかなタッチが特徴的な作品に仕上げました。

そして、「言の葉紙しばい」発売を記念した完成品の贈呈式が12月9日に学園前キャンパスで行われ、集まつた報道関係者に向けて絵を描いた学生たちが紙芝居の読み聞かせを早速披露しました。こども教育学科では、この紙芝居を授業だけでなく、教育実習先などでも活用していく予定です。(※「言の葉大賞®」は、一般社団法人言の葉協会の登録商標です。)

購入はこちからから▼
<http://www.kotonoha-teisho.jp/raise/picture-set/>



贈呈式にて紙芝居の読み聞かせを実演



原作の魅力を引き出すため、作画にも力が入る



言の葉協会担当者に意見を伺いイメージを検討

| ネットいじめなどの被害を防ぐ 大学生・高校生がプレゼン披露

• 12月12日

青少年のインターネットリテラシー向上を目指して、高校生・大学生等がインターネットの適切な利用に関して、自ら実践してきたことや考えていることなどを発表する「スマホ学生フォーラム2021」(奈良県主催)が樋原文化会館で開催され、経済経営学部3年の鶴岡芹菜さんが登壇しました。



鶴岡さんは、小学校や中学校に出向いてインターネットやSNSの安全な使い方に関する授業を行う「大学生ボランティア指導員養成事業」に従事しており、この取り組みについて発表を行ったほか、その後のトークセッションにも出席し高校生と意見を交わしました。

また、同フォーラムには県下の高校生や高等専門学校生も参加しており、帝塚山高等学校からは川村周さん(2年)と竹島美桜(みお)さん(1年)が発表を行ったほか、司会でも放送部員が活躍しました。



コーディネーターを務めた経済経営学部・日置慎治教授は総評で、子どものSNS被害の増加に警鐘を鳴らしつつ、「どれも素晴らしい取り組みなので継続してほしい」と参加した学生たちを讃えました。



大学生・高校生を交えたトークセッション

| 女子バレーボール部の勢い止まらず そして本学初Vリーグ選手が誕生

• 11月6日

関西大学バレーボール連盟1部秋季リーグ最終戦が東生駒キャンパス体育館で行われ、今季もリーグ戦全勝で躍進する女子バレーボール部が、同じく全勝の神戸親和女子大学と頂上決戦に挑みました。

勝った方が優勝という一戦、かつ本学は連覇が懸かっていることもあり、選手たちのプレッシャーは最高潮に達していましたが、実力を存分に發揮し、危なげない試合運びで3セットを連取し、昨秋から22戦連勝でリーグ連覇を果たしました。

また、11月21・22に行われたファイテンカップ・関西バレーボール大学男女選手権大会(関西インカレ)でも、リーグ戦の勢いのままに初優勝を決め、関西でのタイトルを制覇しました。

そして、これら大躍進の立役者でもある現代生活学部こども学科4年のキャプテン・吉田美海(みなみ)さんと、文学部日本文化学科4年の中野樹里さんが、本学初のVリーガーとして4月よりそれぞれデンソーエアリービーズ、ブレス浜松に所属することが決定。プロリーグでの彼女たちの活躍にも注目です。

| 新しい『大学祭』様式に挑戦 虹色祭の火は絶やさない

• 11月20日

学生の祭典、第57回帝塚山大学「虹色祭」が東生駒キャンパスで行われました。

例年であれば学生・教職員のほか、近隣にお住まいの方にも数多くお越し頂き盛大に催されるのですが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年度に続いて今年度も入場を学内者に限定して開催することとなりました。



その代わりとして、会場に来られなかった学生や一般の方々に向けて、奈良テレビ放送のYouTubeチャンネルでライブ中継や見逃し配信を行い、自宅などでも虹色祭を楽しめるよう工夫されました。

飲食を提供する模擬店の出店は中止となったものの、クラブ・サークルによるステージパフォーマンスや学科ごとの学修成果展示、お笑い芸人やアーティスト(三阪咲さん)のライブ、ラストを彩る打ち上げ花火など、ほとんどのイベントが例年通りに行われ、コロナ禍で機会の減った「お祭り」をリアルでもリモートでも多くの学生が楽しみました。



ダンスサークル「楽笑crew」の圧巻パフォーマンス



リーグ連覇を達成し歓喜するメンバーたち



頂上決戦は手に汗握る攻防となった



吉田美海さん

中野樹里さん



(※写真撮影のため、一時的にマスクを外しています。)

参加者全員でピップ・ポーズの記念写真
(上段右から2番目がピップ・松浦社長、その左が久保田CMO)

高校生の声を販売戦略へ活かしたい ピップ・松浦社長が本校を訪問

・10月2日

ビジネスアイデアコンテスト「キャリア甲子園2020」（マイナビ主催）において、高校3年（当時2年）の生徒4名がピップ株式会社の主力商品・着庄ソックス「スリムウォーカー」のマーケティング責任者として、決勝大会まで勝ち進んだ（＝「さうや」第11号7ページを参照）。経緯から、同社の松浦由治代表取締役社長と久保田達之助CMO（最高マーケティング責任者）に本校までお越し頂き、池辺政人校長、情報科・西川和宏教諭及び出場生徒4人が出席しての情報交換会を開催しました。

最初に決勝大会の様子をビデオで振り返った後、ピップ・松浦社長よりキャリア甲子園で生徒たちが提案した内容について現時点における取組状況の説明があり、その後高校生目線で見る商品のプロモーション戦略などについて、熱心な討議が繰り広げられました。

松浦社長は、「これまで商品はテレビCMで消費者へ訴求することが一般的で、当社も過去には注目を集めたCMがあり、現在もまだ通用する手段と思っていた。しかし、今日生徒の皆さんのお話を聞いてみると、（彼女達は）全くテレビを見ていない。今後、若年層へ商品を知つてもうには思い切ってテレビを捨てて、SNSなどスマホを介したプロモーションへの転換を早急に進める必要があると感じました。」と話され、新たなビジネスアイデアの芽生えに繋がったようでした。

今後も生徒4人が引き寄せてくれたご縁を互いに育み、生徒への工場見学会やピップ社員によるキャラリア講演など、本校とピップ株式会社との連携を密に図りたいと意見が纏められ、情報交換会は有意義なものとなりました。

ビジネスアイデアコンテスト「キャリア甲子園2020」（マイナビ主催）において、高校3年（当時2年）の生徒4名がピップ株式会社の主力商品・着庄ソックス「スリムウォーカー」のマーケティング責任者として、決勝大会まで勝ち進んだ（＝「さうや」第11号7ページを参照）。経緯から、同社の松浦由治代表取締役社長と久保田達之助CMO（最高マーケティング責任者）に本校までお越し頂き、池辺政人校長、情報科・西川和宏教諭及び出場生徒4人が出席しての情報交換会を開催しました。

最初に決勝大会の様子をビデオで振り返った後、ピップ・松浦社長よりキャリア甲子園で生徒たちが提案した内容について現時点における取組状況の説明があり、その後高校生目線で見る商品のプロモーション戦略などについて、熱心な討議が繰り広げられました。

松浦社長は、「これまで商品はテレビCMで消費者へ訴求することが一般的で、当社も過去には注目を集めたCMがあり、現在もまだ通用する手段と思っていた。しかし、今日生徒の皆さんのお話を聞いてみると、（彼女達は）全くテレビを見ていない。今後、若年層へ商品を知つてもうには思い切ってテレビを捨てて、SNSなどスマホを介したプロモーションへの転換を早急に進める必要があると感じました。」と話され、新たなビジネスアイデアの芽生えに繋がったようでした。

今後も生徒4人が引き寄せてくれたご縁を互いに育み、生徒への工場見学会やピップ社員によるキャラリア講演など、本校とピップ株式会社との連携を密に図りたいと意見が纏められ、情報交換会は有意義なものとなりました。



紙袋いっぱいのプレゼントに喜ぶ生徒たち



高校生の率直な意見にも笑顔で応える松浦社長



決勝大会の様子を生徒たちの密着映像で振り返る



大会の舞台裏で久保田CMOが生徒たちを励まし続けた

2年目「田んぼプロジェクト」 稻にも生徒にも実りある秋

• 11月7日

「古代米田んぼプロジェクト」の舞台となる田んぼでは、今年も無事に赤紫色の稲穂が垂れて収穫時期を迎えたことから、英語検定試験が重なり止む無く欠席となった生徒を除く中学1年から高校2年までの男女12名が現地へ赴き、稲刈りに挑戦しました。

意気込んで田んぼに到着するも、未明ににわか雨が降った影響で大きくぬかるんでおり、生徒たちは履物を脱ぎ捨て、冷たい泥へ裸足で飛び込み、足元から伝わる寒さと闘いながら刈取り作業へ励むことに。

ただ、天が味方をしてくれたのか、次第に太陽の温かな日差しが降り注いでくると、生徒たちの鎌の動きも活発になり、作業はスピードアップ。予定より遅れたものの、3時間ほどで全ての稲穂が刈り取られました。その後「はぜ掛け」作業に全員で取り組み、一連の収穫作業が終了しました。

稻穂が乾いた2週間後には再び現地へ戻って脱穀を行い、一生懸命に育てたお米を食べて、プロジェクト2年目も達成に喜ぶ生徒たちの笑顔とともにエンディングを迎えました。



はぜ掛けを行うために刈り取った稻を束ねる



作業を済ませて今日はここまで(※写真撮影のため、一時的にマスクを外しています。)

2年ぶりの旧友との再会に 笑顔の花が咲き乱れました

• 1月10日

帝塚山学園同窓会の主催により、20歳を迎えた同窓生（74期生）の成人式が学園講堂で行われ、華やかな振袖やスーツに身を包んだ256名が参加しました。



同窓生が母校に集う形で実施する成人式は平成17年に始まり、今回で18回目を数える恒例行事となっています。（昨年の73期生成人式は、コロナ禍により中止。）

今回参加した74期生は、卒業直後（令和2年春）から新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けており、旧友と会うことが様々な制約で難しい中、卒業後初めての再会となる方も多く、開式時間の随分前から会場へ詰め掛けて、在校当時の思い出話に花を咲かせていました。

時節柄、懇親会の開催は見送られましたが、式典終了後には高校3年の時の担任教諭とともにクラス単位で集合写真を撮影し、74期生は新成人となった自覚を胸に、大人としての第一歩を踏み出しました。



恩師とのクラス集合写真に笑顔がこぼれる(※写真撮影のため、一時的にマスクを外しています。)

医療に新しい道を拓く ぜひ後輩にも続いてほしい

• 11月24日

中学校・高等学校では、様々な業界の第一線で活躍する卒業生を迎えて、大学進学から現在までの足跡をお話し頂き、生徒に将来の進路を選択するヒントとしてもらう「キャリア教育講演会」を実施しています。

この日は、医師を目指す生徒を対象として、慶應義塾大学医学部眼科学教室特任助教で創薬ベンチャー企業の代表取締役CEOでもある堅田侑作さんにオンラインで講演して頂きました。

実は中学時代「優秀な生徒ではなかった」と、恩師である岩本敦史教諭を前にして照れながら話す堅田さん。しかし、「人の喜ぶ姿を見たい」という信念の下、目の前の患者を救う「臨床医」から世界の患者を救う「研究医」、更には患者も経済も救って国を豊かにする「起業医」へとキャリアアップを進めた話に、一般に医師と言われる臨床医だけをイメージしていた生徒は終始驚きの表情を浮かべながら、熱心に先輩の話へ耳を傾けていました。



「ぜひ後輩にも続いてほしい」とエールを贈る堅田さん



小学校の前に見慣れたバスと運転士さんが登場しました

働く人に興味を持つことから 社会との関わりを知っていく

• 10月19日

2

年生で行う生活科の授業では、「みんなの町で働く人」をテーマに自分と社会（人々や地域）との関わり方を学習しています。そこで、児童へ「町にはどのような働く人がいますか」という質問をしてみると、「ゴミ収集の人」、「消防士」、「スーパーで働く人」、「学校の先生」など様々な回答があり、また、それぞれの仕事にも多くの興味を持っているようです。

そこで今回は、毎日の上下校時に学園前駅で目にしている「バスの仕事に携わる人」へスポットを当て、奈良交通株式会社の協力のもと、最新型の路線バスを小学校前まで運転してきてもらい出張授業を行いました。

到着したバスの前で児童が待っていると、「みなさんおはようございます。バスおじさんですよ！」と車内から運転士さんが登場。運転士の具体的な仕事の内容や車両の仕組みについて、丁寧に説明して頂きました。

その後、実際に運転席へ座らせてもらい、座った状態では見えない死角を体験したり、運転士に急病などの異常が発生した際に乗客がバスを停車させる緊急停止ボタンの説明を受けるなど、バスを安全で安心して利用できるための工夫を数多く教わりました。

普段利用する際には知ることのできない「ヒミツ」に興味を持った児童は、時間の許す限り運転士さんへ質問を投げ掛け、その「ヒミツ」を忘れないようにと、タブレットで写真を撮影したりメモを取ったりして、「おしゃらせ」ノートを書くための資料作りに励んでいました。



エンジンを運転士さんが毎日点検することを教わりました



車内で気になるところを探して、質問してみよう



運転席から見えない場所があることを教えてもらいます



普段乗り降りするところからスロープが登場しました

表現を豊かに活きた英語で プレゼンテーション

12月10日

毎年冬に行われる「英語発表会」が昨年度のコロナ禍による実施見送りを経て、今年度から「Tezukayama English Day」としてリニューアルしました。

令和2年度からスタートした新学習指導要領に準拠し、児童に「話す」技能の2領域（やりとり・発表）を意識付け、これを毎年継続する中で自然と習得することを目標とします。学年ごとにテーマを設けていますが、決められたシナリオは無く、児童が自ら発表内容を考え、英語科教員とともに英語のセリフを組み立てていきます。

5年生に与えられたテーマは『SDGs（持続可能な開発目標）』。17の世界的目標について学年全員で意見



を出し合い作り上げた発表内容は、教員も驚くボリュームになりました。さらに、プレゼンテーションでの表現を考え、英語のスピーチ内容も全て記憶した上で本番に挑んだ児童たちの姿は逞しく、早くも来年のステージが楽しみとなりました。



気候変動対策についてグループで解決策を考えた

ディスタンスを取る時代でも、 チーム全員で心をひとつに

10月9日

真夏を思わせるぐらいの陽気に恵まれ、中学校・高等学校グラウンドにおいて運動会を開催しました。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、昨年度と同様にプログラムを短縮するほか、観覧は6年生の保護者のみとして、他学年の保護者にはリアルタイム配信を視聴頂く形での実施となりました。

全学年が4色のチームに分かれて、直線走（かけっこ）、団体演技及び対抗リレーで得点を争います。直線走（かけっこ）は学年ごとに行われましたが、6年生の男女最終組では、小学校で一番のスプリンターを見られるとあって、会場は多くの歓声に包まれました。

また、団体演技では、低学年・高学年がそれぞれ「わ（和・輪）」・「Colorful」をテーマに音楽に合わせて美しい演技を披露し、観覧の保護者を喜ばせました。

今年は「赤組」が優勝し、優勝旗を先頭にチーム全員が誇らしい表情でレーンを一周し、無事にフィナーレを迎えました。

児童たちの合唱する声が 2年ぶりに響き渡る

12月14日

帝塚山小学校の冬の恒例行事、「第49回音楽祭」。昨年度は感染症対策として、異例の楽器演奏のみでの開催となりましたが、今年度は感染状況が落ち着いている（令和3年12月現在）ことから、クラスでの合唱が復活しました。



音楽祭での合唱が今回で最後となる6年生は、月組が「Power of Dream～夢のちから～」を、星組が「僕はアスリート」をピアノ伴奏と指揮に合わせて伸びやかな声で元気一杯に歌い、ステージを楽しんでいました。

また、クラブ単位のプログラムも2年ぶりに復活し、コーラス部・和太鼓クラブ・吹奏楽部が普段の練習成果を発表しました。和太鼓クラブは児童が揃いの法被に身を包み、迫力ある太鼓の演奏と勇ましいパフォーマンス「こどもばやし」を見せ、客席に居た保護者の方や先生から大きな拍手を受けていました。



爽やかな合唱の声が体育館全体に広がる



応援合戦では見覚えのある有名人?も登場



応援に背中を押され、颶爽とゴールを駆け抜ける



拍手の応援が園児たちの背中を押す

晴天の日差しよりもアツい 園児たちの姿に大きな拍手

• 10月16日

爽

やかな晴天に恵まれる中、小学校グ

ラウンドで運動会を開催しました。

運動会の始めには、塚本真紀園長から「今日は、いつも園庭よりもずっと広い（小学校の）グラウンドなので、かけっこなどの競技はノビノビと、リズム作品はこれまで練習してきた成果を見せて、お父さんやお母さんを楽しませてあげましょう。」と園児に激励の言葉を掛けられました。

プログラムでは、昨年度の運動会では新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施が見送られた、物語の内容を子どもたちがお互いに分かれ合い体で表現する、帝塚山幼稚園独自の「リズム作品」が復活。先生が読み上げる物語のストーリーに合わせて、小さな体を精一杯に動かして演技を披露しました。また、2歳児と保護者で行う「あ・い・う・体操」では、子どもたちが自らお絵描きした衣装に身を包み、保護者の方々の目を楽しませました。

学年ごとの競技についても、年少組の「ダンシング玉入れ」では、先生と一緒にダンスを踊る最中に突然始まる玉入れに大ハッスル。年中組の「大玉コロコロ！」は勢い余ってコースアウトするチームが見られたほか、年長組の「障害物競走リレー」でも2回行われたレースがどちらも、抜きつ抜かれつのデッドヒート！

もちろん、定番の「かけっこ」ではいつも遊び友達とのスピード勝負を繰り広げ、観戦していた保護者の方々も、真剣に取り組む園児たちへ大きな拍手を送りながら、その成長の姿をしっかりとカメラに収めていました。



障害物競走は抜きつ抜かれつのデッドヒート



先生と一緒に玉入れ前のダンスを楽しむ



組体操では一糸乱れぬパフォーマンス



緊張の表情が見える入場行進

今日はお父さん・お母さんを 子どもたちがエスコート

12月5日

お絵描きや陶芸、工作など、幼稚園で子どもたちが春から創り上げてきた作品等の成果を保護者の方々に見てもらう「制作展」が行われました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で一度も保育参観を行うことができなかったことから、お父さん・お母さんに幼稚園で子どもたちが過ごした毎日を知ってもらうべく、春からの行事の思い出を残す絵も壁いっぱいに飾られ、各保育室は色鮮やかな作品で埋め尽くされました。

また、リズム室には昨年夏に開催された「東京2020オリンピック競技大会」にちなんだ木工作品が登場。年長組の園児たちの手により五輪のシンボルマークや表彰台、競泳・野球・サッカーの日本代表選手がリアルに表現され、記念写真に格好のスポットとして多くのご家族の人気を集めています。

2歳児教育の「たぬきのおつきみ」も表情豊か



各保育室には園児の作品が所狭しと並ぶ



良い年となるよう、 鏡餅へ願いを込めて

12月17日

2学期の終業式を前に、リズム室でお餅つきを行いました。

蒸した餅米が臼に入れられると、まずは現業職員さんが園児へつき方のお手本を披露。しばらくすると杵を振り下ろすタイミングで園児から「ヨイショ！」と声が掛かるようになり、さらに杵で餅をつく仕草を真似る園児の姿も出てきて、一生懸命に力仕事を応援していました。



いよいよ次は、園児自身が餅をつく番。重い杵を振り上げるのに一苦労する園児もいましたが、みんな上手にお餅へ命中させて、クラス全員がつき終わる頃には臼の中では美味しいそうなお餅が出来上がってきました。

つき上がったお餅は各保育室へ運ばれ、「次の一年も良い年となるように」と願いを込めながら、園児一人ひとりが小さい鏡餅を作り、新年を迎える準備を整えました。



先生に教わりながら鏡餅作りに挑戦

サンタさん、来年も 良い子にして待ってるね

12月10日

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、幼稚園においても大勢が一度に集まる行事を自粛してきましたが、感染状況が落ち着いてきたことから、久々に全園児がリズム室に揃って「クリスマス会」を行いました。

オープニングは、先生によるブラックライトを使ったパネルシアターが行われ、クリスマスマードを盛り上げました。続いて、帝塚山大学の児童福祉ボランティアサークル「どれみ♪」の学生によるハンドベル演奏があり、またクリスマスソングに合わせたダンスも園児と一緒に楽しみました。

そして、部屋が急に暗くなると鈴の音とともにサンタクロースが登場。「どうやって来たの？」・「サンタさんは何歳なの？」と矢継ぎ早に質問を投げる園児にも、サンタさんは優しく英語で答えてくれました。

一人一人に手渡しでプレゼントを届けた後、次の子どもたちのもとへ立ち去ろうとするサンタさんに名残を惜しむ園児も多く、決して夢ではない思い出の残る一日となりました。



サンタさんとハイタッチでお別れのご挨拶

園児たちから贈られたお礼のメッセージを持つ
(写真左より)高瀬実久さんと秋田果実さん
(※写真撮影のため一時的にマスクを外しています。)



さつまいものバトンリレー ～幼稚園児へ伝えたい大学生の思い～

晴 天に恵まれた10月下旬、学園農園で幼稚園児がさつまいも掘りを行いました。

小さい体で一生懸命に蔓を引っ張り上げると、立派に育ったさつまいもが鉈なりになって土から顔を出しました。「あ、まだ繋がってるで！」と地中に伸びる蔓を指差し、友だちに声を掛けてはまた引っ張り…と、実りの秋を体感するひと時を過ごしました。

実はこのさつまいも、大学の準クラブ「てづかfarm」の学生が春から育ててきたもので、学園内でのバトンリレーの意味がありました。

遡ること5か月前、学園農園にてづかfarmの学生7名の姿がありました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大に伴うキャンパスへの入構制限の影響で、クラブ活動も自粛を余儀なくされました。てづかfarm代表・秋田果実さん(現代生活学部食物栄養学科3年)は「今年こそ幼稚園の子どもたちと一緒に収穫体験を」との思いを込めて、一本一本丁寧にさつまいもの苗を植えてきました。

ただその思いも空しく、いわゆる第5波の感染拡大を受けて、園児と一緒に使う収穫体験は断念せざるを得ない状況に。しかし、「自分たちは参加できなくても、園児には収穫を体験してもらいたい。」(秋田)と、現業職員や幼稚園の先生の協力を得て実現へと漕ぎ着けました。

てづかfarmメンバー・高瀬実久さん(同学科3年)は、「自身も幼稚園の頃、実際に野菜がどう育つかを観察したり、収穫を自らで行うことで命の大切さを知り、また食べ物に対して愛着も持つことができた。その経験を伝えていきたい。」と思いを話します。

さつまいも掘りが行われてから数日後、幼稚園からてづかfarmへお手紙が届けられました。そこにはお礼のメッセージとともに収穫風景のイラストがあり、大きなさつまいもの姿が描かれています。

「芋の毛や葉っぱの葉脈まで細かく描かれている。きちんと見てくれていたんだな。」(高瀬)——てづかfarmの学生たちの思いは、しっかりと幼稚園児に届いているようでした。



さつまいも掘りに奮闘する園児たち

中高同窓会
だより

**令和3年10月16日(土)
第23回ゴルフ大会**

令和3年度の第23回ゴルフ大会を京都府木津川市の美加ノ原カントリークラブで開催しました。本年度の開催はコロナ禍にあり心配されましたが、リスクを軽減するために団体戦を中止し、懇親会は短時間での実施に留めるなどの措置を講じて実施に漕ぎ着けました。

当日は秋晴れの好天に恵まれ、同窓会ならではの17期生から69期生までの老若男女67人が参加され、プレーを通じて楽しい時間を過ごし、親睦を深めることができました。

個人戦では35期生の尾崎元紀さん（写真右）が優勝され、綿谷基同窓会長（写真左）より個人優勝者にトロフィーと賞品を、また他の成績優秀者には賞品が贈呈されました。



次回は、更なる多くの会員が喜んで参加できるようにと、ゴルフ委員会は既に来年度の企画がスタートしており、多くの会員のご参加をお待ちしております。

【成績】個人戦（敬称略）
優勝 尾崎 元紀（35期）Gross 88 NET 70.0
2位 宮谷 青児（36期）Gross 94 NET 70.0
3位 山田 正弘（17期）Gross 91 NET 70.6

**令和3年12月
中高図書館に本を寄贈しました**

今年度も中高図書館へ「読書好きの生徒たちのために」と、44冊の図書を寄贈しました。

図書の寄贈は、平成24年度から継続事業として実施しているものであり、今回も中高の図書館部長の先生、図書司書の方々に利用頻度の高い本や人気シリーズの新刊や話題の本を選んでいただきました。

選んでいただいた図書は「ギネス世界記録2022」、「失敗の科学」、「世界の歴史 角川漫画学習シリーズ20巻」、「マンガでわかる薬のしくみとはたらき事典」などでした。

なお、同図書館の入口正面に特設コーナーを設けていただき、一時展示していただいております。



**令和4年2月
優秀クラブを表彰しました**

中学校・高等学校のクラブ活動で全国大会へ出場した功績に対して、令和3年度（第20回）優秀クラブ表彰として9つのクラブへ表彰状と副賞を贈呈しました。

例年であれば、校長や顧問の先生方にもご参列を頂く授与式を開催して栄誉を讃えますが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されることから、賞品を顧問の先生へお渡しするに留め、功績についてでは以下へご紹介させていただきます。

高校放送部 代表生徒／富永 輝（2年H組）

- ・第45回全国高等学校総合文化祭
- ・第68回NHK杯全国高校放送コンテスト

中学放送部 代表生徒／田口 明美（3年7組）

- ・第38回NHK杯全国中学校放送コンテスト

高校理科部ロボット班 代表生徒／野間 怜生（1年C組）

- ・FLL（ファーストレゴリーグ）
- ・WRO（ワールドロボットオリンピアード）

高校弦楽部 代表生徒／山本 紫万（2年J組）

- ・日本学校合奏コンクール グランドコンテスト

高校卓球部 代表生徒／齋木 侑京（3年D組）

金佐 康佑（2年D組）

- ・令和3年度全国高等学校総合体育大会
卓球競技 男子シングルス／ダブルス

中学卓球部 代表生徒／米光 優歩（2年6組）

米田 直弘（1年1組）

- ・JOCジュニアオリンピックカップ
2021年全日本卓球選手権大会（カデットの部）
- ・第23回全国中学選抜卓球大会

中高数学研究部 代表生徒／辻本 穂波（3年8組）

- ・第21回日本情報オリンピック
- ・日本情報オリンピック第1回・第2回女性部門

中学水泳部 代表生徒／吉中 世夏（3年6組）

- ・第61回全日本中学校水泳競技大会

高校ダンス部 代表生徒／富永 千遥（2年G組）

- ・第33回全日本高校・大学ダンスフェスティバル
(神戸)

新型コロナウイルス(オミクロン株)への対応について

令和4年1月からの新型コロナウイルス(オミクロン株)による急激な感染者等の発生を踏まえ、学園が適時に開催している「感染症対策本部会議」において、各学校園における感染者や濃厚接触者の発生状況及び感染症対策の取組みについての情報共有及び感染症対策の協議を行っています。

各学校園では、感染者が発生した場合には状況に応じて学級閉鎖や臨時休校を行うほか、保健所の疫学調査や濃厚接触者の特定に協力し、速やかな授業再開に努めています。また、保健所の業務が逼迫する中にあっても、各学校園がこれまで蓄積してきたノウハウを活用して、感染が拡大しないよう積極的に措置を講じています。

今後とも「コロナで学びを止めない」との方針の下に、手洗い・手指消毒、マスクの着用、検温、換気などの基本的な感染症対策の徹底はもとより、学生・生徒・児童及び園児の心身のケアに十分配慮してまいります。

なお、各学校園における感染症対策の実施状況及び予定は、次のとおりです。(令和4年2月3日現在)

① 大学（大学院を含む）

- ・市民大学講座（3月実施分まで）は、オンラインで実施する。
- ・入学試験は、通常どおり実施する。
- ・卒業式・大学院修了式（3月23日）及び入学式（4月1日）は、規模を縮小して実施する。

② 中学校・高等学校

- ・中学校卒業式（3月18日）は、3部制で実施する。
- ・昼休みのグラウンド使用は当面不可とし、生徒が安心して黙食できるように教員が見守りを強化する。
- ・クラブ活動については、県外の学校との交流及び県外での試合は公式戦を除き中止とする。また、合宿、遠征についても中止とする。

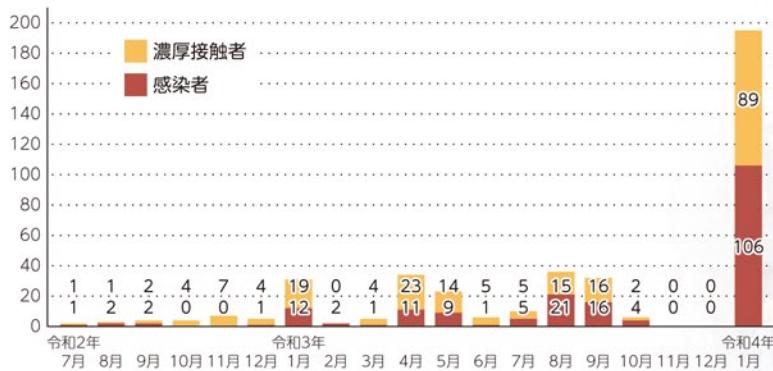
③ 小学校

- ・4年生～6年生のスキー教室（宿泊行事）は中止とする。
- ・卒業式（3月10日）は、参列者を限定して実施する。

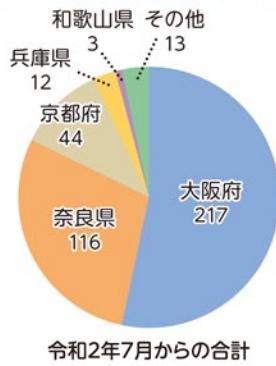
④ 幼稚園（2歳児教育を含む）

- ・2歳児教育修了式（3月9日）及び卒業式（3月16日）は、参列者を限定して実施する。
- ・来年度入園式（4月12日）は参加者を限定して、時間短縮の上で実施する。

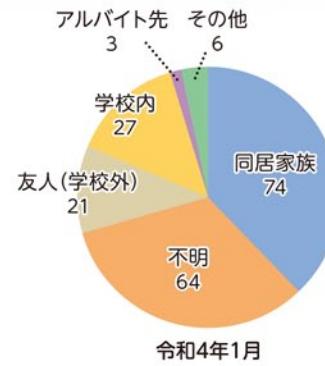
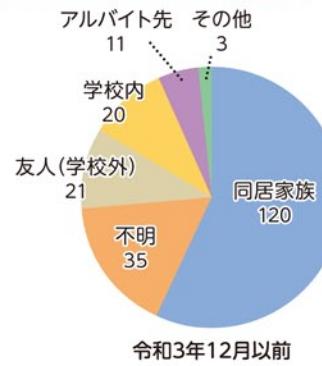
■学園全体での感染者・濃厚接觸者の月別発生状況（単位：人）



■居住地別発生状況（単位：人）



■発生原因別の内訳（単位：人）



帝塚山学園物故者慰靈祭を執り行いました

令和3年10月2日（土曜日）午前、学園創立80周年記念行事として、四天王寺内佛殿（大阪市天王寺区）において帝塚山学園物故者慰靈祭を執り行いました。

このたびの慰靈祭については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、祭主である吉川勝久理事長はじめ常任理事のみが参列し、平成23年9月から令和3年8月までに学園関係者で亡くなられた59名を新たに含む、学園創立以来の物故者の諸靈を慰めました。

吉川理事長は祭儀後の挨拶で、学園発展のために尽力を重ねてこられた先人への感謝とともに、あらためて追悼の意を表されました。また、90周年、100周年においても「選ばれ続ける帝塚山学園」であるよう、役員、教職員が一丸となって精進することをお誓い申し上げると述べられ、滞りなく慰靈祭の法要を終えました。



帝塚山学園創立80周年 記念募金 ご芳名一覧

帝塚山学園創立80周年
記念募金特設

ホームページはこちら⇒



<https://tezukayamagakuen.jp/80th/>

帝塚山学園創立80周年記念事業の趣旨にご賛同いただき、これまでにご寄付を頂戴した皆様への御礼の意を込めまして、ここにご芳名を掲載させていただきます。

なお、ご芳名については、令和3年8月1日から令和3年12月31日までにご寄付を頂戴した法人・団体及び個人の方で、ご芳名の公表の意思をご確認させていただいた方のみ、五十音順で掲載いたしております。

また、これまでに本誌でご紹介をさせていただいた方を含めた皆様のご芳名は、帝塚山学園創立80周年記念募金特設ホームページに掲載いたしております。

〈 法 人 ・ 団 体 〉

株式会社青木環境サービス 様 アドバンスシステム株式会社 様 SMBC日興証券株式会社 奈良支店 様 株式会社エヌケイ深井 様
奥アントーカ株式会社 近畿支店 様 株式会社ガーデンラボ 様 有限会社広恵 様 医療法人香月会 学園前クリニック 様
株式会社シーズ 様 総合警備保障株式会社 様 株式会社総務部 様 株式会社ダイヤ書房 様 大和証券株式会社 奈良支店 様
東西建築サービス株式会社 様 株式会社なら工務店 様 株式会社奈良事務機 様 株式会社奈良保健衛生社 様
阪和通工株式会社 様 株式会社フジカワ 様 有限会社古山厨房 様 株式会社文教クロス 様 株式会社マッシーン 様
有限会社三笠商会 様 三菱UFJモルガンスタンレー証券株式会社 奈良支店 様 株式会社明新社 様 株式会社山上組 様

〈 個 人 〉

相川 貴文 様	門谷 雅代 様	高山 格次 様	濱田 健徳 様	村尾 忠廣 様
阿部 多津子 様	上村 規子 様	竹田 長英 様	林 尚佳 様	森 茂子 様
井浦 哲平 様	茅野 綾子 様	武田 晴甫 様	原 明日美 様	森 徹 様
石井 万紀子 様	川村 裕子 様	立石 美紀 様	春 峯子 様	森本 寿美子 様
石川 育代 様	木下 朋枝 様	田中 治美 様	日置 晃久 様	両角 和久 様
石塚 栄二 様	木村 栄子 様	谷 雄美子 様	日置 慎治 様	屋嘉比 恵子 様
泉 理恵子 様	木村 清彦 様	谷掛 富美子 様	日置 友輔 様	矢中 雅代 様
伊藤 範子 様	楠元 京子 様	谷口 淳一 様	肥田 智子 様	矢野 富士夫 様
今木 加代子 様	久保田 清美 様	谷村 恵巳子 様	ブーランドゥサンペール恵 様	矢邊 洋子 様
入江 一樹 様	車崎 心音 様	佃田 芳子 様	深井 保男 様	山岡 浩美 様
上田 栄子 様	小柴 幸苗 様	筑波 宣子 様	福井 基行 様	山際 辰太郎 様
上田 和広 様	小林 永治 様	壺内 建行 様	福田 雅実 様	山口 美鈴 様
上田 圭子 様	紺木 邦廣 様	寺嶋 万里 様	福田 義子 様	山崎 哲 様
植田 麻衣子 様	坂野 勝彦 様	中井 美智子 様	藤岡 康仁 様	山本 香 様
上村 陶子 様	佐久間 桂子 様	中西 邦子 様	藤原 永年 様	山本 清海 様
鵜飼 啓子 様	佐藤 匡史 様	中西 弘一 様	堀 有希 様	横見 博之 様
尾上 道子 様	重本 和泰 様	中林 良仁 様	前田 拓哉 様	吉岡 由雅里 様
太田 恵子 様	柴田 正美 様	中村 元子 様	前田 春香 様	芳川 隆行 様
太田 眞穂子 様	下山 佳子 様	野津 寛美 様	増田 恵美 様	吉田 知賀 様
大竹 紀代子 様	新屋 珠美 様	登 昌代 様	増田 正司 様	吉富 未悠 様
岡崎 晋明 様	菅沼 典子 様	橋爪 宗和 様	松嶋 宣樹 様	吉富 佑哉 様
岡山 房恵 様	曾根 秀一 様	橋本 望 様	松本 礼子 様	米満 信昌 様
奥村 拓躬 様	第十 由香 様	橋本 美樹 様	水野 輝久 様	分島 彰久 様
越智 弘美 様	高島 実 様	長谷川 正 様	宮城 美保子 様	和谷 やよい 様
落合 史生 様	高橋 真理子 様	花房 笑子 様	三好 郁子 様	



「**T-time**」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
本誌をお楽しみください。